

林大だより



第 84 号 令和 4 年 10 月 31 日

長野県林業大学校翌検会



2 学年 5 月 山の環境学 (上高地)



2 学年 6 月 北海道研修 (大雪山)



1 学年 4 月 屋久島研修

ごあいさつ 林大生、無事に頑張れ

翌検会 会長 上田 浩之



だろうと引き受けましたが、平和で無事に本年度が終了してくれることを願うばかりです。

今年度、会長に選出されました上田です。地元の木曾、開田高原に暮らしているため、実質的な距離は学校に近く、何かあればお力になれる

丸山校長先生はじめ林大関係者の皆様には、昨年と変わらず更に生活に深く入り込む様相の新型コロナウイルス感染症と闘いながらの学校運営を、日々気を遣いながら子ども達と関わっていただき、本

当に感謝しています。四月に一年生を迎え、約半年が過ぎました。この間にも、屋久島研修等様々な研修を実施していただき、コロナ対策等難しい情勢の中で良い学習をさせていただいております。

木々が生い茂り豊かな水流と過度の近代化の無い町部でさえ被災する近年では、我々大人では考えられない事を研究し、新たな林野の在り方を見出し実践にできる一つが、林業大学校、林大生のこれからだと思います。

新たな寮も完成し、居心地も良いと聞いています。私の周りにも林大の卒業生がいますが、皆が口を揃えて「寮生活はかけがえのないものだ」と言います。生涯の友を作る場だと言う方もいます。今の子ども達も同じように、新しい寮で充実した生活を送って



不安を救う言葉

長野県林業大学校 校長 丸山 勝規



開校以来四十三年間使用した旧男子寮は老朽化が進み、耐震性も不足していたので、令和三年度に新しい男子寮の建設工事が実施され、この四

月に供用開始となりました。この間、予算、設計・監督、工事に関わった全ての人に心より感謝を申し上げます。新寮は木曾地域の木材をふんだんに使用しており、給湯・暖房には地元産の木材チップを燃料にしたバイオマスボイラーを利用しているなど、「木にこだわった」寮で、本校にふさわしい魅力的な施設

です。先日、オープンキャンパスに参加した高校生親子が新学生寮を見学した際に、皆さん「いい寮ですね」と褒めてくださいました。林業を志す多くの若者が集う寮になることを願っています。

さて、本題に移ります。不安を救う言葉とは、中学時代の恩師が教えてくれた言葉です。それは、「不安な気持ちで押しつぶされそうな時は、自分は何に不安になっているのかを徹底的に考えると、不安の原因が見えてくる。後は原因を解決するよう努力すれば不安はなくなる」というような言葉でした。受験時や就職時はもちろんのこと、仕事で行き詰まった時にも自分を助けてくれました。原因を取り除くよう努力し、その結果は必ず誰かがフォローすると信じていること。このように開き直ると、力みが消え気持ちも軽くなりました。自分で解決できないことなら相談することでも不安を軽くできます。皆さんも何となく不安で気が晴れない時に試してみてください。

自分が信じた言葉「三日・三月・三年」です。三日頑張れば三月持つ、三月頑張れば三年持つ、三年頑張れば自分が置かれた環境にも慣れ仕事が続けられるという意味です。少しずつ仕事に対する自信が持て、仕事の楽しさもわかってきました。この職場でやっていけると思ったものです。皆さんも人生の「道しるべ」となる言葉をみつけてみませんか？

もう一つ、就職するに際し

伸びしろじかない

中部森林管理局長 関口 高士



希望あふれる学生の皆さんに今更聞くのは野暮かもしれませんが、林業にどのようなイメージをお持ちでしょうか。

私は平成十六、十七年度にかけて林野庁で森林・林業白書の担当をしていましたが、当時、白書で紹介したのが最先端とされていた日吉町森林組合の取組でした。これは、組合員が所有する森林について、間伐にかかる費用と間伐材販売による収入、さらに補助金の額を示して、このくら

実施しませんか、と提案するというものでした。皆さんからすると大昔のことですから、「ふーん」ということかと思いますが、一般的な商取引の現場では、見積もりがあつて納得すれば契約となるのは昭和の時代（なんだったらもっと前）から当たり前前なわけです。その一方で、林業では「現場はそれぞれ違うからやってみないと分からない」という理屈の下、かなり多くの場合、所有者が頼む、請負業者がやる、その結果に基づいて現金のやりと

りがある、以上、という素晴らしい信頼関係の下での危険なギャンブルが行われてきていたわけです（だから日吉町森林組合の取組が画期的と言われた）。今は、さすがにもうちよつと近代化されているはず（断言できないのが悲しい）ですが、「現場はそれぞれ違うから」とか、一歩進んで「現場でいちいちそんなこと」といった理屈が、安全面を筆頭に様々な改善を拒んできたようにも思います。言い換えれば、フラットな目で見れば、

林業には改善の余地がものすごくある、ということになると思えます。結局現場を変えられるのは人です（日吉町森林組合も外部の方が入って変わりました）。皆さんが今後良い職場を選び（良い職場ほど改善が進みます。また、選ばれない職場は危機感を持ちます。最近、公務員も選ばれない側です）、新たな目で林業界を変えていくことを期待しています。

林大生への期待 地域の隅を照らす「人財」に

佐久森林組合 代表理事専務 小島 和夫



林業は、経済活動と環境保全という二つの面を持っています。グローバル化・低コスト化が進み、厳しい状況が続く中、経済活動として、生産

性・効率性を求めることは必要ですが、これが行き過ぎ、環境への配慮を欠くと、水源の涵養、災害防止や生態系の保全など、森林の持つ「公益的機能」への影響が懸念されることとなります。近年、森林・林業は、環境面だけでなく、「SDGs」Ⅱ持続可能な開発目標の面からも注目・評価されています。

す。加えて、作業の機械化やITを活用した調査や情報処理技術の導入も急速に進んでおり、これに応えられる知識と経験を持った若い「人財」が求められています。林大生は、林業はじめ木材、自然科学などの基礎知識・理論を学んでいることに加え、作業に必要な資格・免許を取得していることから、即戦力として期待しているところでは、当組合では、本年四月、初めて林大卒業生を雇用することができました。

地況も様々なため、同じ現場は二つとなく、教科書どおりには行かないので、毎回異なった対応が求められます。このためには、今まで学んだ知識を基礎に、様々な経験を積み重ねることが重要になるため、当組合では、一定の間、技能職員として現場作業に携わってもらおうこととしています。また、林業には、地域の経済活動として、森林所有者や木材関係、行政など、地域の「人財」が関わっているので、こうした方々と連携・協力することが、林業ひいては地域の発展を図る上で重要となり

ます。比叡山の開祖、最澄上人は、「一隅を照らす、是即ち国宝なり」という言葉を残しています。林大生の皆様には、林業という立場から地域の発展に寄与できる、輝く「人財」となって、地域の「一隅を照らす」存在になっていただきたい、と願っています。結びに、長野県林業大学校が、林業の人材育成機関としてますます発展されるよう、お祈り申し上げます。

学生のページ

あすなるの呟

つぶやき

学校・寮生活から

林大に入学して



1学年 有村 凌空

長野県林業大学校に入学し、新しい寮での生活も六ヶ月が経ちました。初めての寮生活など、新しい生活に不安な日々を送っていましたが、仲間たちと共に生活し、勉強や実習をしていくうちにだいたいが慣れてき

ました。入学してすぐに屋久島研修に行きました。登山は雨のために途中までしか行けませんが、木曾とは違う植生が見られたり、仲間との絆を深めることができ、忘れられない思い出になりました。勉強面では、新しく覚えなければいけない知識や技術が多く大変ですが、毎日実習



1学年 4月 城山登山

林大を振り返って

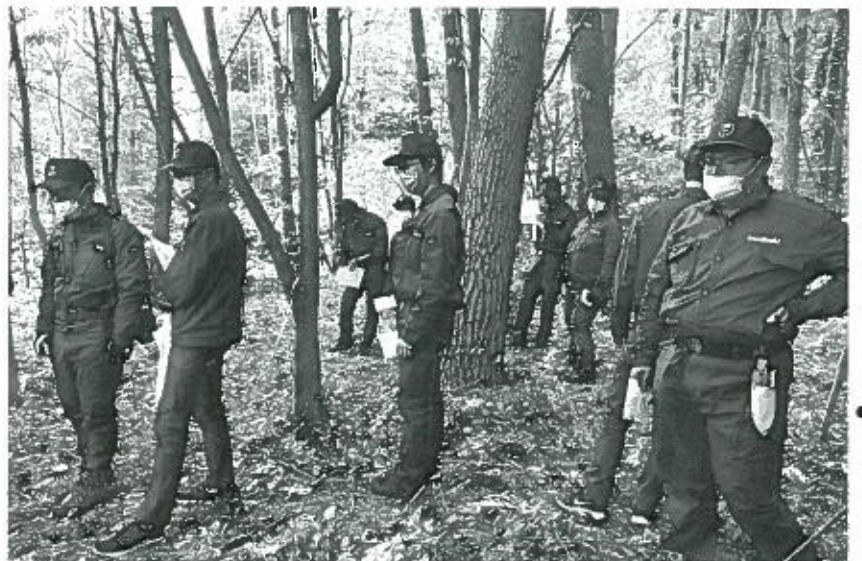


1学年 小松 隼人

などを通じて楽しく身につけています。特にチェーンソーの実習は、自分のチェーンソーを使って目立てをやったり、基本の伐り方を何回も練習してできるように頑張るのが楽しいです。今後は、寮祭などのイベントは全力で楽しみなが、進路も考えていくようにし、林大生活を満喫していきたいです。

私が林大に入学してから約半年が経ち、入学当初より段々とこの学校の生活に慣れてきました。私はこの学校に来るまで林業というものにあまり触れる機会がありませんでした。未だに色々なことに挑戦する毎日です。林大に入学してから私が一番印象に残っていることは屋久島研修です。屋久島には入学して間もない頃に行

きました。その頃はまだお互いのことをあまり理解できていませんでした。そのため行くのたため行く前は楽しくみでしたが、かなり不安も抱いていました。しかし、二泊三日の研修はとてもしっかりも楽しく、これからこの人生でおそらく体験できないことをたくさん体験できました。そして何よりお互いに助け合うことで絆を深めることができました。研修を通してできた関係はきっと今後の生活においてとても大切なものになると思います。林大はとても個性的でしっかりと退屈しません。是非林大という唯一無二の環境に身を置いてみてはいかがでしょうか。



1学年 5月 特用林産学

林大に入学して



1学年 鈴木 優也

四月に私たちが四十四期生が入学して早くも六ヶ月が過ぎました。最初は初めてのことに



が沢山で、特に寮生活は正直不安でしかなかったです。ですがこの半年でだいぶ慣れてきて、休日に遊びに出かけたり、放課後に筋トレしたり、とても楽しく過ごせていて、同期の人や優しく接してくれた先輩方には感謝しかありません。しかし楽しいだけでは終わらないのが学生で、一般教養の授業や行事があるたびに出来るレポートの多さには毎回苦しめられますが、わからないところは仲間と助け合いができることも、寮生活のいいところだと思います。

これから一年生の後期が始まり、より忙しくなりますが、就職も近づいてきているのでより一層勉強に力を入れ、日々の講義と実習を大切に、着実に知識を身につけていきたいです。また、来年には私たちが先輩となり後輩の一本になる立場です。そのためにも日々の生活にメリハリをつけ気を引き締めて、残りの時間も林大で楽しい思い出を作りたいと思います。

林大に入学して



1 学年 日比谷 巧

私が林大に入学してから半年ほど経ち、寮生活にも慣れてきました。入学当初は同室の人と話せるか不安でしたが、今では自然に会話できるようになりました。また、勉強面に関して

も不安はありましたが、初めてのテストで高得点をとれたことで自信がついてきました。特に印象に残っているのは、林業機械学のチェーンソー実習です。初めてのエンジン始動ではなかなかかからず苦戦しました。しかし、授業が進むに



1 学年 6 月 造林学

つれて慣れていき、スムーズに始動できるようになりました。こんなふうに自分の成長が実感できるのがとても楽しいです。現在は受け口をつくる練習をしていて、正確な水平切りと斜め切りは難しいです。これからどんどん練習していきたいと思っています。

一年目の後半は、私たちの自主研究が全く進んでいないので、仲間と相談し、これからの予定をつめて動いていきたいと思っています。

林大に入学して



1 学年 森川 晴仁

私たちが四月に林大に入学してから六ヶ月が過ぎ、林大での生活にも慣れてきました。入学して早々に新型コロナウイルスの感染により学校閉鎖、同級生の顔も名前も知らない状況での隔離生活は大変でした。隔離が終わると、寮生活に馴染めるか不安でしたが、仲間たちとともに勉強していくうちに話せる友達も増えていき、最初に抱えていた不安はすぐに無くなりました。最初は林業についてさっぱりわからない私でしたが、実際の現場で働く講師の先生方の専門的な授業のおかげで少しずつ理解できる

ようになっています。日々の授業がとても楽しいです。これからは一年生も折り返しとなり、生活にも慣れてきたことでだれ始める時期でもありません。後半は寮祭や駅伝大会もあります。イベントの準備から運営など、真面目に取り組みもしっかり楽しみたいと思います。授業もさらに専門的になっていくと思うので、遊びも勉強も全て全力で楽しめるように、残りの林大生活も満喫していきたいと思っています。



1 学年 7 月 林業概論 (赤沢美林)

林業への志



2学年 江田 能教

「林業」という職業を目指すようになったのは、私が中学生の頃だった。私がまだ幼かった時からよく山の中の現場へ連れて行ってくれた父の仕事姿に憧れたのはいつ頃に

なるだろうか。いつしか父のように林業の仕事をする事が私の目標になっていた。

それから、できたこの目標に向け、昨年に林業大学校へ入学した。高校卒業までの十八年間、親元から離れたことのない私は、初めての寮生活に漠然と不安を抱えていたことを今でも覚えている。しかし数か月経つたときには、良き仲間にも恵まれ、自然豊かな木曽の土地で、チェーンソー技術を競うJLCCや就職に向けて、日々練習

を重ねる充実した毎日を送れるようになった。

共に生活し、共に学ぶ。良いことも悪いことも仲間と分かち合えるこの環境で、人としても成長しながら残りの半年間を有意義に過ごし、将来は父と同じ「志」を持ち、林業という自然の命を扱うこの仕事に向き合っていきたいと思う。私は未来の林業を担う一人として、責任と誇りをもってこれからも努力していきたい。

一年半の林大生活を経て



2学年 小瀬木 天河

私が長野県林業大学校に入学して約一年半という月日が経ちました。林大生活を過ごして、私はここに来て良かったと思っっています。何故なら最高の仲間に出会えたからです。

全寮制で一部屋四人のこの学校は、人と関わり合う時間

二年生になって

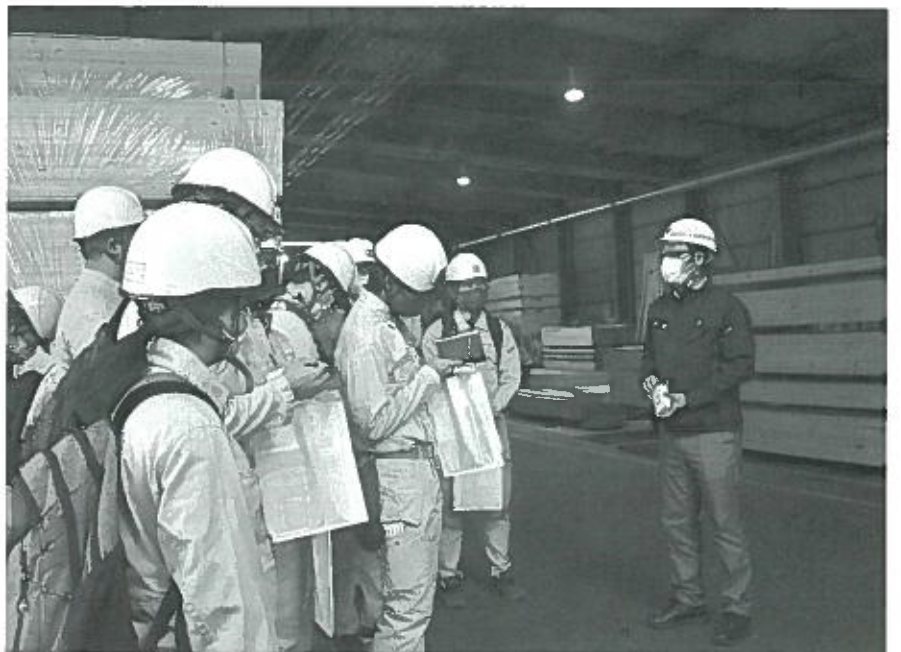


2学年 関 和真

林大に入學してあつという間に一年が経過し、私達も二年生となり先輩となりました。この一年間は本当にあつという間でした。最初は実習が全然なくてほとんど座学で戸惑いましたが、徐々に慣れていきました。林大での生活はストレスも多いですがとて

も楽しく、皆と協力し合う生活は、日々自分を成長させてくれています。

私自身、就職先も無事に決まったので、残りの林大生活で精一杯勉強して後悔のないようにしたいです。また、チェーンソーや林業機械の練習も行い、就業後に即戦力となるよう努力していきたいです。



2学年 4月 木材商業論

気付けば、林大で過ごすことが出来る時間も約半年となりました。入学当初は多くの



2学年 中村 育野

林大での生活を通して

不安を抱えて新たな生活をスタートしました。特に、寮生活に不安があったのですが、四十三期の仲間とすぐに打ち解け、その不安はすぐに消えました。四十三期は十人十色であり、それぞれが自分の考えを持っていて、自分には無いものを持っている人が多く、四十三期の仲間たちに出会えて良かったとつくづく思います。

林大での生活を通して学んだことや仲間との思い出は書ききれないほどありますが、林大で過ごした時間は貴重な時間となり、人生の糧となる時間でもあったと感じています。残り半年間という短い時間の中で、林大で吸収出来るものを吸収し、卒業した際に悔いが残らぬように全力で楽しみたいのです。



2学年 4月 林業機械学



2学年 6月 林業架線学実習（ワイヤー加工）

私がこの学校に入学して一年と半年が経過しました。これまでの林大生活を振り返るとチェーンソー以外思いつきません。一年の時から放課後にチェーンソー練習をしていて、十一月からは大会に向けて動いていました。同じ大会を目指す仲間とともに日没までエンジンを回し、夜遅くまで目立ををし、部屋でも競技の話をしていました。放課後だけでは足りず土日や長期連休中も先生方の協力を得て練習を行っていました。今思うと計画した私自身、かなりきつい練習計画だったなと思います。大会では良い成



2学年 7月 林業架線学実習

伐倒班として生活



2学年 山岡 空

績を残すことが出来ただけでなく、確実に技術的に成長することが出来ました。大会が終わった今、伐倒班メンバーはチェーンソーを使う授業では指導側になり、四十三期全体の技術向上や林大の材調達などを任せてもらえるようになりました。残り半年の林大生活ですが、自身の就職活動はもちろんです。三林大での優勝を目指して、やることは山積ですが、伐倒班で得たものを活かしていきたいと思えます。

保護者の
ページ

松

の

一
言

夢に向かって

太田 功一



息子が林業大学校へ入学して、早いもので半年が過ぎようとしています。初めは期待と不安で一杯でしたが、帰って来るたびに成長している姿が頼もしく、楽しい学校生活を送っているんだと安心しました。

息子は林業の道ではないですが、樹木医を目指しています。幼い頃から私と同じ造園業をやりたいと言い、そしていつからか樹木医を目指すようになり、高校の先生の勧めもあり、林大に決めました。目指すところは違えども、伐採を学ぶ事は私の願いでもあります。造園業でも伐採仕事は多くあり、活躍の場を広げ

るためにも林大が適している
と確信しました。

二年間という短い学生生活。色んな知識や経験を活かし、樹木医という夢を叶えて下さい。最後になりましたが、お世話になってる先生方、林大関係者様に深く感謝いたします。

感謝を忘れずに

塩入ヶ谷吏佐子



息子は、幼い頃より、自然の大好きな子でした。テーマパークよりも、自然に触れられるデイキャンプをして成長してきました。

中学生の時、進路に悩む息子に、将来は好きなことを仕事にしてほしいと伝えました。そこで選んだのが、林産工芸科のある学校で学ぶことでし

た。高校では、林家さん体験を通して林業に対する興味を深めていきました。そして、

高校卒業後の進路を考えたい時、就職か進学かで悩んでいた息子が、就職もできて学校にも通わせてもらえるを選んだのが、森林組合に就職し、林業大学校に通う道でした。

自分で選んだ道、今息子は生き生きしています。そんな息子の姿を見るのがとても誇らしいです。林大では、多くのことを学び、将来の林業の担い手として貢献できるように、遅く成長してほしいと思います。そして、先生方や仲間を支えられて今の自分があることを忘れず、感謝の気持ちを常に持てる人になってほしいと思います。林業大学



1学年 6月 トップガン研修

校の皆さん、二年間宜しくお願ひいたします。

親子で新たな
スタートとチャレンジ

遠近 瑞穂



大阪から長野へ移住すると同時に子ども達の進学。知らない土地、友達も知り合いも全くないところでの受験、初めての寮生活、何もかもがチャレンジでした。

息子は小さい頃から自然が大好きで、中学になるとパークレンジャーになりたいという夢ができました。林大への入学はまずその第一歩。森林の現状を知り、行動することを目指して、行動することを目指して。しかし海外とは違い、今の日本ではその仕事は重視されておらず、非常に狭き門。普通に考えれば諦めてしまいうような夢ですが、ブレることなく、志を高く、努力をしている息子を見てみると、移住をして起業を目指す私もとても勇気づ

けられます。

私も子どもも、チャレンジは始まったばかり。これから様々なことを乗り越えていかななくてはなりません。沢山の方々と関わり、学び、感謝を忘れずに歩んでほしいと思います。

山仕事の
人になる！

洞地奈奈江



林大に通っている息子は男ばかり四人兄弟の次男。彼は小学校に通えなかった時期がある。しんどかったその時期に、近所の山仕事の兄さんが炭焼きに誘ってくれた。火の番をしながら山のこと、木のこと、炭のこと、たくさんの話をしてくれたそう。別の日には枝打ちするから見においでと。そんな日々を過ごすうち、彼は「山仕事をする人になる」という目標を持った。憧れる大人が近くにいるということはとても幸せなことだ。

目標を持った彼は徐々に学校に行かれるようになり、その目標はブレることなく彼の毎日を支えた。そして今、林大でたくさんの仲間と囲まれて充実した日々を過ごしている。つまり、過去の経験を乗り越えて自分の脚で前に進む彼を誇りに思っている。

ただ、会う度にムキムキになっていく身体と、おしゃれな服ではなく刈払機やチェーンソーを欲しがると家族は何度も大爆笑。好きこそもの上手なれ。がんばれ林大生！

木曾との縁

吉原 剛



「木曾路は全て山の中である」島崎藤村の夜明け前の有名な一文ですが、私はその山の中の木曾に生を受け、林大から徒歩数分の場所で幼少期を過ごしました。親の仕事の都合で十二歳になる前に引

越してしまいました。木曾は私の故郷です。その地を息子が学びの場所として選べ林業を志すことを知り、嬉しさと共に不思議な縁を感じました。

林業と言えば一昔前は衰退産業などと言われた時期でもあったと思いますが近年では、カーボンニュートラル、ウッドショックなど取り巻く環境は大きくプラスになっていくように感じます。そんな時期に林業を学べる彼を羨ましく思うと同時に、少しずつ逞しく成長していく姿を見ると彼の選択は間違っていないのだと安堵しています。自然豊かな我が故郷で、本格的な講義や実習を通じて彼が大樹のように大きく成長することを期待します。



1学年 9月 森林土壌学

何より楽しんで!!

井出 祐一



期待と不安を抱えて入学。入寮してから、あっとい

う一年半が過ぎようとしています。学校生活はどう？寮生活は楽しんでる？そんな心配ばかりしていましたが、たまに家に帰ってきた時の表情や話しかけ、息子なりに充実した日々を過ごしているのだなと実感できました。「林業に興味がある」と初めて聞いた時は、驚きと共に嬉しさがこみ上げ、私自身のテンションも上がったことを今でも鮮明に覚えています。どうやら中学校での職業体験で何か感じたものがあつたらしく、高校三年間でブレることなく受験・合格・入学したことは息子ながら尊敬に値し、毎日ふざけあつていたお父さんは少し恥ずかしいです。

学生の頃の寮生活経験は人

生の「宝」となる期間であり、苦楽を共にした仲間は一生涯の友人となり得るでしょう。学業は当然ですが、仲間と過ごした時間（できれば彼女もみつ付けてくれたらよかった）は、将来必ず人生で役にたち、良き思い出となることを信じています。残りわずかな林大生活、思いきり挑戦し、思いきり楽しんでもらえたら、親として嬉しく思います。

新たな挑戦

神田 真一



中学生の頃から林業に興味を持ち始め、高校生から親元を離れての寮生活。そこから息子の挑戦がはじまりました。初めての事ばかりで最初は心配でしたが、周りの先生方や先輩、仲間が助けてくれたおかげで成長が出来たと思います。

林大に入学して早二年が経

とうとじています。コロナ禍で辛い思いをした事も、我慢する日々を送った事も沢山あったと思います。その中でも、将来の夢に向かって努力し多くの資格を取得したり、様々な経験をさせてもらった事は、息子がこれから林業の仕事をしていくにあたって、とても大きな事だと思えます。その知識を生かし、社会に出てからも失敗を恐れず挑戦し続けてほしいです。これからも感謝の気持ちを忘れず、残りわずかの林大生活を仲間と共に悔いのないように送ってもらいたいです。



2学年 6月 不整地運搬実技講習

娘が気付かせてくれたこと

佐々木義輝



私は仕事で日本中を車で移動しています。娘の林業大学校への進学を機に、最近山の木々や治山工事で伐採されている山肌など、今まで気にならなかった風景が目が留まるようになりまし

た。地方から地方への移動には、中山道のように山間の川に沿って走る道がたくさんあります。埼玉では昔、川を利用して江戸まで木材を運んでいました。現在の東京にも木場や新木場という地名があります。千葉には木下（きおろし）街道という道もあります。このような水運や道

に沿って町や文化が発展したことで、木の文化を感じる地名や名称が各地に残っているのでしょう。日本人と木の関わりを改めて感じます。

娘が林業大学校に入学するまでは、林業は私達には縁遠い世界だと思っていました。ですが、日本の土地の大半は山林です。木を使って家を建て、雨は山から清流を作り、その恵みで日本人は生きてきました。そんな木の文化に深く関われる林大生の皆さん！ぜひ誇りを持って頑張ってください。



7月 新寮でのオープンキャンパス

元気な森林を作るために

高橋 寛



息子が林大へ進学をし、瞬く間に一年と半年が過ぎ去ろうとしている今日この頃、担任の先生をはじめ諸先生方に

感謝の心を

宮入久美子



この場をお借りして、ご指導いただいている先生方、共に歩んでくれているクラスメイト、寮での食事を作ってくださっている皆様にも、御礼と感謝を伝えたいです。皆様を支えられて、一年半どうにか過ごしてきました。本当に

支えられ、勉学に勤しむことができずこと、何とお礼を申し上げればよいか、言葉もございません。

さて、森林は国土の保全や水源のかん養など、多面的な機能を有し、様々な恩恵をもたらす「緑の社会資本」と呼ばれています。国土の約七割、長野県に至っては県土の約八割が森林面積であり、この緑豊かな自然は、来訪される皆様に癒しと和み、そして安らぎを与えてくれる、かけがえのない環境資源でもあります。

ありがとうございます。

うちは農家だからねと言っ て農業高校に通っていた娘が、高二の職場体験で林大のオープンキャンパスに行き、林業を学びたいと言った時は、正直なところ無理ではないかと思いました。長野県の村で育ち、幼い頃から草木や花の名前を覚えるのが得意ではありましたが、女子、やせ型、非力、色白、どれをとっても林業向きとは思えず、加えて、根性もない強い性格でもない子が続けられるのかと、そして親元を離れての寮生活、大好きなカラオケも百均もない木曾での生活に耐え

ます。この森林を次世代へと繋ぐために、取り組むべき課題が山積していることも現実としてあります。

この課題解決に向けて息子には、林大で学んだことを活かせる、元気な森林（もり）作りのコーディネーターとして、その一翼を担える人材に育ててもらえればと願うばかりです。

残り僅かな学生生活、何事もさらに前向きに取り組み、最高の思い出を胸に巣立って行ってほしいと思います。られるのかと、大きな不安と心配ばかりでしたが、お陰様で卒業まで数ヶ月となりました。就活も始まり、やはり木に携わる仕事に就きたいと頑張っています。自分で選び決めた道を迷わず進んでほしいと思います。感謝を忘れず



卒業後



東北森林管理局 総務企画部
内田 朋紘
(第40期生)

林大を卒業してから約二年の月日が経ちました。林野庁職員として入庁し、最初の配属先は青森県であり、今年の

有言実行



教授
下澤 幸典

五月二十一日(土)、二十二日(日)に青森県で「第四回日本伐木チャンピオンシップ(以降JLC)」が開催され、長野県林業大学からはレディースクラスに三名、ジュニアクラスに四名の計七名と多くの学生が出場しました。また、卒業生も三名参加し、「長野林大JLCチーム」

檜のアドバイス

四月には秋田県の東北森林管理局 総務企画部 企画調整課に勤務しています。

私が現在担当しているのは「情報管理係」。公務員が仕事をやる前提としてネットワークやPCが必要となります。それらを管理し、必要な物品を調達しており、ITの分野にも少し触れています。林業と少し離れた感じが、とても良い経験をさせて頂いています。私からのアドバイスは、嫌

なことから目を背けないことです。仕事をしていく上で嫌な仕事は必ずあります。林業とは全く関係ないような仕事をするとときもあるかと思いますが、不必要だと目を背けないで取り組んでください。必ず自分の身になり、生かされるときが来ます。

や、嫌なことから逃げる人は仕事でも逃げる人だと思いません。勉強を通して、思考力、発想力や表現力も育まれていき、視野が広がっていきまます。自由な考え方ができるようになりまますので、自分の可能性を広げ、いろいろな分野で活躍してください。

そして、勉強だけでなく今の友人や人との縁も大切にしてください。つらいことがあったときの心の支えになります。私の場合は転勤族となり

ます。だからこそ場所と人間関係が毎年変化します。さまざまな方と接することができ、いろんな価値観を知ることができ視野が広がっていきます。転勤により皆様と将来どこかでお会いすることもあるかと思えます。もしかしたら一緒に働くこともあるかもしれません。もしお会いできたら皆さんの職場や林大生活について教えて頂ければと思います。

十名が大会に挑みました。

JLCは、林業技術及び安全作業意識の向上・林業の社会的地位の向上などを目的に二年に一度開催されているもので上位の選手は世界伐木チャンピオンシップ(以降WLC)の日本代表になります。日本ではまだ第四回大会ですが、世界大会は四十年以上の歴史を持つ由緒ある大会です。

林業大学では二〇一七年にハスクバーナ・ゼノア(株)との教育連携協定を締結し、毎年二回のトップガン研修ではJLC競技を取り入れた、安

全で正確なチェーンソー技術の習得に力を入れてきました。

二〇一八年の第三回大会から本校学生が出場し、二名が優勝を目指しましたがジュニアクラス二位と三位となり、残念ながらWLCへの出場は叶いませんでした。その後の二〇二〇年に予定されていた大会は新型コロナウイルス感染症の拡大により中止となり出場予定の二名の学生は涙を呑むこととなりました。

五月二十一日の予選会では、レディースクラス、ジュニアクラスともに一名が決勝進出を果たしました。決勝進

出が叶わなかった学生も、ベ

トスコアを更新した者、普段ならあり得ない不運にあった者、何度か天を仰いでしまふことはありましたが怪我無く無事に競技を終えることができました。

翌二十二日の決勝大会は途中から雨が降る大変なコンディションでしたが、レディースクラスでは神農千愛さんが三位、ジュニアクラスでは山岡空さんが二位となり、山岡空さんは伐倒競技の部門で他のクラスを含めた全選手中最高得点の六五六点を獲得して伐倒競技部門優勝を果たしました。

また、第三回大会では二位

に終わり涙を呑んだ三十九期卒業生の高山亮介さん(有限会社矢守産業)がジュニアクラスで念願の総合優勝を果たし、二〇二三年に開催される第三十四回WLCに日本代表として出場することとなりました。彼は高校時代にテレビで放送されていたWLCを観て大会に出たい思いで本校に入學し、「絶対にWLCに行く」という四年越しの夢を叶えました。

学生の皆さんも、どんなことでもいいので夢や目標を持ってチャレンジしてもらいたいと思います。

林大生の様子

新しい寮での生活がスタートした新年度も新型コロナウイルス感染症の流行は収まらず、日常行動が制限される中でしたが、林大生は元気に生活しています。地域や地元の皆様との交流も少しずつコロナ禍前に戻ってきています。



木曽こども園児との交流（4月）

4月、2学年が近くの木曽こども園の園児と「駒打ち体験」で交流しました。



アダプト花壇の花植栽（6月）

道路アダプト事業として、学生自治会で学校前の花壇整備を行っています。



新寮食堂での昼食風景（7月）



ハスクバーナ・ゼノア社との協定による
トップガン研修での1学年（6月）

また、5月には、国内・世界最高レベルの林業技術・安全作業を目指し青森県で開催された「第4回日本伐木チャンピオンシップ（JLC）」に、ジュニアクラスで4名、レディースクラスで3名、計7名の林大生が参戦して練習の成果を発揮。決勝大会でジュニアクラス2位が1名（2学年 山岡空さん）、レディースクラス3位が1名（2学年 神農千愛さん）と優秀な成績を収めました。



長野林大JLCメンバー



決勝（マストツリー伐倒競技）



林大HP



facebook



instagram



■事務局 長野県林業大学校内
〒397-0002
長野県木曾郡木曾町新開4385-1
TEL 0264-23-2321
FAX 0264-21-1058